



新世紀のキャンパス
Campus of New Century

広島工業大学 三宅の森 Nexus21



山のふもとにありながら、目の前には世界遺産の宮島など、風光明媚な瀬戸内海のパノラマが広がる。



総工費約74億円をかけ、地上10F、高さ50メートルにも及ぶ講義棟「三宅の森 Nexus21」。

キャンパスのシンボルでもあるつつじ(アゼリア)の植栽を生かした「アゼリア広場」は教員と学生のコミュニケーションスペース。





吹抜けを利用した中庭形式のプランにより、自然採光と自然換気を実現したキャンパスプラザ。「コージェネレーションシステム」や「ライトシェルフシステム」などを採用したエコキャンパスだ。

広島工業大学は2009年1月、新講義棟「三宅の森 Nexus21」を竣工した。2006年に同大学を運営する学校法人鶴学園が創立50周年を迎えたのを機に、構内に点在する講義室を1カ所にまとめ、最新機器を備えた新講義棟を建設。「学園の建学の精神と教育方針に基づいた、広島工業大学独自の教育を展開したい」(鶴衛 理事長・総長)という想いからである。

建学の精神『教育は愛なり』は、「この教育は学生の何を育てるのか」と、学生への“想い”をもって教育にあたることを示す。教育方針『常に神と共に歩み社会に奉仕する』は、「授業をもっと学生にわかりやすくするにはどんな工夫をすればいいか」と、常に自分を見つめ直しながら教育を行うことを示す。学

園としてハードの充実をはかることで、教員にもう一度、教育内容を見直してもらいたいがある。

五日市三宅の地に、山を切り開いて建てられた、通称“三宅の森”と呼ばれるキャンパス。ここで、創設当時の教職員や学生が築いてくれた伝統を受け継ぎながら、過去と未来、教職員と学生、先輩と後輩、男子と女子、大学と地域など、様々な「新しい絆(Nexus)」を形作り、「21世紀の知性」を育みたいという想いが、「三宅の森 Nexus21」には込められている。さらに、中央の「アゼリア広場」を中心に、新講義棟と点在する校舎を南北の軸線上で結び、瀬戸の海と森をつなぐ「海と連なる森のキャンパス」をコンセプトに、ランドデザインが進行中だ。

館内には、全部で58室ある講義室等

を中心に、学生に関係する部署を集め、ワンストップサービスを実現。主な施設は、10Fに講演会や研究発表会等に使用する多目的ホール「スカイテリア」、5-9Fに「講義室」、4Fには学生サービスフロアとして「学務部」「就職部」「コミュニケーションプラザ」を配置した。3FにはIT関連のサポートを行う「情報システムメディアセンター」、物理、数学、英語の個別指導が受けられる「教育学習支援センター」、21時までオープン利用できる「PC教室」、最新のPC機器とソフトを使用できる「オープンラボラトリ」、個人・グループ自習を行う「ラーニングcommons」を配置。2Fには「CAD教室」「大食堂」、1-2Fにかけて601人収容の大ホール「デネブホール」、1Fは「保健室」「学生相談室」「教員控室」が入っている。

今後も、地元可愛され、存在感ある大学を目指すという。就職率の高さに定評があり、正社員率は100%を誇る。建学の精神と教育方針をよく理解した“誠実”な学生を育て、彼らが世のなかで評価されてきたことが、同大の強みであり差別化だ。ここにも先輩からの“絆”が息づいている。(取材・文/本誌 能地)



開放感あふれるレストラン「LEAF GARDEN」。カフェテリア形式で、グラムデリや焼きたてパンが人気。



プロジェクターの起動と連動したスクリーンモニターを備える開放的な講義室。240人収容で、各席で情報コンセントを使用できる。

シンポジウムやコンサート、演劇鑑賞を行うデネブホール。ステージ背面の可動壁を開けると、つつじの植栽を室内に取り込める。



5-9Fに設置された、地震時の衝撃力を吸収し分散する制震装置「粘性ダンパー」。フロアごとに色と大きさを変え、教材として学生に見せている。



8Fの多目的講義室は天井をスケルトンにし、「床上下振動用制振装置」や構造部材を直接見せる仕掛け。

